

**問1** フランス革命期には、王政が廃止される過程でルイ16世やマリー・アントワネットといった人物が、ギロチンによる公開処刑に処されました。かつて「ルイ15世広場」と呼ばれていた場所が、革命の混乱の終結後、凄惨な記憶を乗り越えて市民が互いに手を取り合う「和解」や「一致」を願って現在の名称に改められましたが、その広場の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2025年 山梨公立入試 類似）

1. コンコルド広場                      2. パステューコ広場                      3. テルトル広場                      4. ヴァンドーム広場

**問2** 江戸時代中期の政治において、田沼意次が従来の農業重視の政策から転換し、幕府の財政を立て直すために積極的に奨励した仕組みとして最も適切なものを選択してください。（2022年 静岡公立入試 類似）

1. 株仲間を公認し、その営業の独占を認める代わりに税を徴収する仕組み                      2. 農村から都市へ出た人々を強制的に村に帰し、農業専念を命じる仕組み                      3. 旗本や御家人の借金を帳消しにすることで、武士の生活を救済する仕組み                      4. 生類憐みの令を發布し、生命の尊さを強調することで社会の秩序を守る仕組み

**問3** 江戸幕府が17世紀前半に段階的に発令した、キリスト教の禁止や海外渡航の制限を目的とした一連の政策について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。（2020年 徳島公立入試 類似）

1. 禁教令を出し、さらに日本人の海外渡航と帰国を禁止することで、キリスト教の拡大と大名が海外と結びつくことを防ごうとした。                      2. 朱印状を与えた船にのみ海外渡航を認め、キリスト教信者であれば誰でも自由に海外貿易を行えるよう奨励した。                      3. 朝鮮や中国との正式な国交を完全に断絶し、出島を閉鎖することで、外国人が一切日本に入れない状態を作った。                      4. 海外でキリスト教を学んだ日本人が帰国して布教することを推奨し、それ以外の日本人の海外渡航を制限した。

**問4** 江戸時代中期の経済において、幕府が財政再建に取り組んでいた時期の状況について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2026年 長野公立入試 類似）

1. 米の増産には成功したが、米価が安くなりすぎる一方で他の商品の価格が高くなる現象が起き、貨幣経済への対応が課題となった。                      2. 米価が急騰して庶民の生活が苦しくなったため、幕府は全国の新田をすべて破壊して米の生産量を制限する政策をとった。                      3. 武士の生活を助けるために、すべての商品の支払いを米で行うよう法律を定め、貨幣の使用を全面的に禁止した。                      4. 米価の下落を防ぐため、幕府は海外から大量の金銀を輸入し、国内のすべての米を買い取って海外へ輸出させた。

**問5** 江戸幕府が実施した大名配置の仕組みについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。幕府は大名を、徳川家との関わりの深さや時期によって「親藩」「譜代」「外様」の三つに分類し、領地を割り当てました。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 関ヶ原の戦い以前からの家臣である譜代大名を、江戸周辺や京都・大坂などの要所に配置して、幕府の要職に就かせるとともに防衛の任にあたらせた。                      2. 徳川氏の親戚である親藩を、あえて江戸から最も遠い九州や東北地方に配置することで、地方から幕府の権威を全国に広める役割を担わせた。                      3. 関ヶ原の戦い以降に服属した外様大名を、江戸に近い関東地方に集中して配置することで、常に將軍の監視下に置き、反乱を未然に防ごうとした。                      4. 1万石以上の領地を持つ大名すべてを、実力や功績に関わらず、江戸からの距離が均等になるように円状に配置して統治の安定を図った。

**問6** 18世紀後半にフランスで発表された「人権宣言」の内容や背景に関する説明として、最も適切なものはどれか。（2025年 宮城県公立入試 類似）

1. 絶対王政による支配を打破しようと、自由・平等や私有財産の不可侵、人民主権などを主張した。                      2. イギリス本国による重税に反対した植民地の人々が、生命・自由・幸福の追求などの権利を主張した。                      3. 名誉革命において、国王が議会の同意なしに法律を停止することや、勝手に課税することを禁じた。                      4. 第一次世界大戦後の混乱の中で、労働者の権利や人間らしい生活を営む権利である「社会権」を規定した。

**問7** 江戸時代中期の社会状況において、農村の組織と統治の仕組みについて説明したものとして、歴史的事実に基づき正しく述べられているものはどれですか。（2021年 埼玉公立入試 類似）

1. 庄屋などの村役人が、村の運営だけでなく年貢の徴収などの行政機能を担っていた。                      2. 農村の自治は否定され、すべての村には幕府から武士が村役人として派遣されていた。                      3. 田沼意次の時代には、村役人が主導して武士の借金を帳消しにする徳政令が頻繁に出された。                      4. 太閤検地によって村役人の権限は失われ、土地の管理はすべて領主が直接行うようになった。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>コンコルド広場</b>	18世紀末のフランス革命では、絶対王政が打倒され、多くの王族や貴族が処刑される恐怖政治が行われました。その主要な舞台となったのがこの広場です。革命後、フランス語で「調和・和解」を意味する「コンコルド」という名前に変更された背景には、暴力による対立を終わらせ、国民の融和を図るといった政治的な意図が込められていました。
問2	<b>答え 1</b> <b>株仲間を公認し、その営業の独占を認める代わりに税を徴収する仕組み</b>	田沼意次は、年貢収入だけに頼る幕府財政の限界を打破するため、商業の発展に注目しました。商人が作る同業者組織である「株仲間」を積極的に公認し、運上・冥加といった税を課すことで、商業資本を幕府の財政に取り込もうとしました。選択肢にある農村への帰還や借金の帳消しは、後の松平定信や水野忠邦による改革で行われたものです。
問3	<b>答え 1</b> <b>禁教令を出し、さらに日本人の海外渡航と帰国を禁止することで、キリスト教の拡大と大名が海外と結びつくことを防ごうとした。</b>	幕府は1612年や1613年に禁教令を出してキリスト教を禁止し、1630年代には日本人の海外渡航と帰国を全面的に禁止しました。これらの政策は、キリスト教が広まることで幕府の支配体制が揺らぐのを防ぐとともに、有力な大名が貿易によって富を蓄え、強大化することを阻止する狙いがありました。
問4	<b>答え 1</b> <b>米の増産には成功したが、米価が安くなりすぎる一方で他の商品の価格が高くなる現象が起き、貨幣経済への対応が課題となった。</b>	享保の改革では新田開発や足高の制などにより幕府の米の収入は増えましたが、市場に米が溢れたことで米の価値が下がりました。当時は貨幣経済が浸透しており、武士や幕府は米を売って現金を得る必要がありましたが、米価安・諸物価高という状況によって、米を基盤とする経済システムが貨幣経済の進展に対応しきれなくなっていることが浮き彫りになりました。
問5	<b>答え 1</b> <b>関ヶ原の戦い以前からの家臣である譜代大名を、江戸周辺や京都・大坂などの要所に配置して、幕府の要職に就かせるとともに防衛の任にあたらせた。</b>	江戸幕府は、江戸の周辺や政治・交通の要所に、信頼の厚い譜代大名を配置しました。これにより、老中などの幕府の重要ポストを譜代大名で固め、政権の安定を図るとともに江戸の警備を強化しました。一方、実力はあるものの反乱の恐れがある外様大名は、江戸から遠い地方に配置することで、物理的な距離を設けて軍事的脅威を減らす戦略をとりました。
問6	<b>答え 1</b> <b>絶対王政による支配を打破しようと、自由・平等や私有財産の不可侵、人民主権などを主張した。</b>	フランス革命の最中、1789年に国民議会で採択された人権宣言は、啓蒙思想の影響を受けて、生まれながらの自由と平等、国民主権、私有財産の不可侵などをうたいました。これは、当時の絶対王政という身分制社会を根本から変革しようとするものでした。他の選択肢については、イギリス本国の重税に反対したのはアメリカの独立宣言、議会の同意なしの課税禁止はイギリスの権利の章典、社会権の規定は20世紀のワイマール憲法（ドイツ）に関する記述です。
問7	<b>答え 1</b> <b>庄屋などの村役人が、村の運営だけでなく年貢の徴収などの行政機能を担っていた。</b>	江戸時代の農村では、武士が直接すべての農民を管理するのではなく、有力な農民である村役人を通じて間接的に統治する形式がとられていました。村役人は村内の揉め事の仲裁や用水の管理といった「自治」を行う一方で、領主に対する年貢の納入責任を負うという行政的な側面も持っていました。徳政令は主に幕府が武士を救済するために出すものであり、村役人が出すものではありません。また、太閤検地はむしろ農民の土地所持権を明確にし、村を単位とした統治を強化するきっかけとなりました。